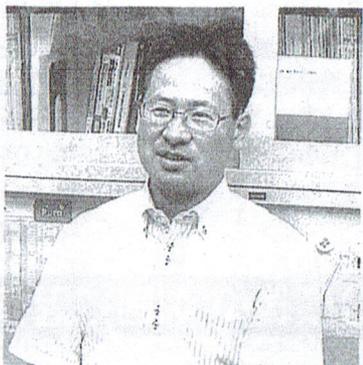


農業にロボット活用



桃を検査するロボットの開発に取り組む石田准教授

石田准教授 あす講演

山梨大
読売講座

山梨大学と読売新聞甲府支局が共催する連続市民講座第9部「創る〜山梨のチカラを活かして〜」の第4回が、16日午後1時半から甲府市武田の同大甲府東キャンパスA2-21教室で行われる。工学部の石田和義准教授が「工学を用いた農

業の効率化と地域の農業に活かすロボットシステム開発」と題して講演する。人型ロボットが商業施設

で接客するなど、ロボットは日常生活でも身近な存在になってきた。担い手の高齢化が進む農業分野でもロボットの活用は重要なテーマで、除草やイチゴの収穫を行うロボットや無人トラクターなどの開発が進められている。

山梨大が取り組むのは、桃に寄生した害虫を発見するロボットの開発だ。桃は県の重要な輸出品だが、主要な輸出先の台湾は検査が厳しく、2010年に日本から輸出された県産の桃から害虫の幼虫が見つかった時は、一時、日本からの輸出が禁止されたことがあ

る。現在は目視で虫による穴を確認しているが、小さな穴のため検査員の負担は大きい。

開発中のロボットはエックス線を使い桃を様々な角度から撮影。検査に要する時間は1個約20秒と人の検査に比べて3分の1に短縮できるといい、19年の実用化を目指す。石田准教授は「ロボットの開発で県内の農業振興に役立てばうれしい」と話す。

講義では、スライドを使ってロボットの歴史や開発者の育成についても紹介する。

講義は90分。聴講無料。事前の申し込みがなくても聴講可。問い合わせは同大教務課（055・220・8043）。